

2007年 グディニ・ポーランド映画祭 主演女優賞・観客賞
 2008年 サンフランシスコ国際映画祭 観客賞
 2008年 トリエステ国際映画祭 審査員特別賞・観客賞
 2008年 ベルジャンシンク国際映画祭 最優秀作品賞・主演女優賞
 2008年 マルメ国際女性映画祭 最優秀作品賞・観客賞
 2008年 ウィスコンシン国際映画祭 観客賞
 2008年 リーズ国際映画祭 観客賞
 2009年 ジンバブエ国際映画祭 最優秀作品賞

91歳。
 そして私
 愛犬フィラ
 古い木の屋敷
 ワルシヤワの森

木洩れ日の家で

Pora umiera

モノクロームの美しい映像に描かれる

老婦人のひとり生きる姿——。

若き日の甘美な思い出、息子との葛藤

そしてしのびよる人生最後の時。

名女優による卓越した演技とともに贈る、現代ポーランド映画の傑作!

監督・脚本：ドロタ・ケンジェジャフスカ 撮影：アルトゥル・ラインハルト 音楽：ヴウォデク・ハヴリク
 出演：ダヌタ・シャプラルスカ/クシシュトフ・グロビシュ/パトリツィヤ・シエフチク
 [2007年/ポーランド映画/104分/35mm/モノクロ/ポーランド語/ドルビーSRD]
 後援：ポーランド大使館配給：パイオニア映画シネマデスク<文部科学省選定><日本映画ペンクラブ推薦>

世界の名画を見る会 vol.33 企画・構成 高野悦子

- 14:00～ 講演：大竹 洋子(東京国際女性映画祭ディレクター)
『木洩れ日の家で』とポーランド映画
- 15:00～ 上映：映画「木洩れ日の家で」
(2007年/ポーランド/モノクロ/104分)



- この公演は黒部市の助成により低料金でお楽しみいただけます。
- 未就学児の入場はご遠慮願います。公演中、未就学児を対象とした「一時保育(無料)」を実施しています。公演前日の18:00までにお申し込みください。

■プレイガイド■

コラーレ/黒部メルシー/魚津サンブラザ/入善コスモホール
 アーツナビ(新川文化ホール・富山県民会館・富山県教育文化会館・
 富山県高岡文化ホール)

2013年 4月14日(日) 開場13:30 開演14:00

黒部市国際文化センター コラーレ (カーターホール)

全席指定 一般1,500円
 高校生以下500円(コラーレでのみ発売)
 障がい者手帳をお持ちの方1,000円(コラーレでのみ発売)

コラーレ

富山県黒部市三日市20番地
 TEL. 0765-57-1201 FAX. 0765-57-1207
 info@colare.jp http://www.colare.jp/
 開館時間：9:00～22:30(土曜～23:00)/毎週水曜休館

■主催：財団法人黒部市国際文化センター
 ■共催：北日本放送 ■後援：黒部市 黒部市教育委員会

木洩れ日の家で

監督・脚本:ドロタ・ケンジェジャフスカ 撮影:アルトゥル・ラインハルト 音楽:ヴウォデク・パヴリク
出演:ダヌタ・シャフラルスカ / クシシュトフ・グロビシュ / パトルイツィヤ・シェフチク
[2007年 / ポーランド映画 / 104分 / 35mm / モノクロ / ポーランド語 / ドルビー-SRD]
後援:ポーランド大使館配給:パイオニア映画シネマデスク<文部科学省選定><日本映画ペンクラブ推薦>

Pora umierać



モノクロームの美しい映像に描かれる
ある女性の晩年の日々——。



「木洩れ日の家で」は、鮮烈なまでに美しいモノクロームの映像と、本作で数々の主演女優賞を受賞した名女優ダヌタ・シャフラルスカによる最高の演技で、ある女性の人生最後の日々を詩的に描き出した作品である。世界映画史に残る名作を生み、名匠を送りだしてきたポーランド映画界から、また1本、深い感動を呼ぶ珠玉の名作が誕生した。

ポーランドの森で、 ひとり美しく年を重ねて——。

ポーランド、ワルシャワ郊外の森、木洩れ日に一面のガラス窓が輝く古い屋敷がある。

91歳のアニェラは、ここで愛犬フィラデルフィアと長く暮らしていた。彼女は年老いても瑞々しい感性を失わず、ひとりで誇りをもって生きている。そして戦前に両親が建てたこの家は、彼女が生まれ、成長して恋をし、夫と暮らして、一人息子ヴィトウシュを育てた、かけがえない場所だった。しかし今、夫もとうに他界、息子も結婚して家を出て、社会主義時代に政府から強制された間借人もようやく出て行った。アニェラは余生が長くないことを悟るなかで、自分がこれからなすべきことを考える。

アニェラの心に去来する若き日の甘美な思い出、息子の幼い頃の愛らしい姿。一方で、静かな生活をかき乱す現在の息子夫婦との関係、家をめぐるいさかい。そのようななか、彼女はやがてある思い切った考えを実行にうつす——。



91歳の名女優、ダヌタ・シャフラルスカが 魅せる最高の演技

主人公アニェラを演じるダヌタ・シャフラルスカは、撮影時91歳であった。1927年に初舞台を踏み、第二次世界大戦後初のポーランド長編映画「禁じられた歌」に出演するなど、その芸歴は83年に及び、95歳になる今も舞台上で現役を続けているポーランドの伝説的女優である。監督・脚本は、「カラス達 (Wrony)」(94)や「僕がいない場所 (Jestem)」(95)など、子どもを主人公にした数々の映画で高い評価を得ている、気鋭の女性監督ドロタ・ケンジェジャフスカ。また、本作の撮影を担当したのは、ドロタの夫でもあり、ケヴィン・レイノルズ監督の「トリスタンとイゾルデ」(06)などで国際的に活躍している、現代ポーランド映画界で最高のカメラマン、アルトゥル・ラインハルトである。夫婦で作品を撮り続けてきた二人は、2010年に新作の日本・ポーランド合作「明日はきっとよくなる (Jutro będzie lepiej)」を完成させた。

